

北前船をとおした地域活性化の取り組み — 佐渡市を中心として —

神原 理

1. はじめに

本稿の目的は、佐渡市を中心として、北前船をとおした地域活性化の主な取り組み状況について整理することにある。以下では、まず、佐渡市における観光政策について取り上げ、次に「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁から認定されている北前船の情報発信事業について、最後に、「北前船寄港地フォーラム」の活動状況について述べていく。

奈良時代以降、遠流の島とされてきた佐渡では、都の皇族や貴族の流人たちがもたらした貴族文化が広まっていった。慶長6年には佐渡の相川で金が発見されたことで、徳川幕府は佐渡を天領とし、相川鉱山から採掘される金銀の積出港として小木港が栄えた。北前船が往来することで、北陸だけでなく、京都や大阪、瀬戸内や九州などから様々な生活文化が佐渡に流入するようになった。江戸時代からは、金山による発展によって奉行や役人たちが江戸から持ち込んだ武家文化や、船乗りや商人たちがもたらした町人文化が広まっていった。結果、様々な文化が醸成され、佐渡独自の文化が育まれたと言われている。島内の神社には数多くの能舞台があり、民俗芸能では「佐渡おけさ」は日本民謡の代表のひとつであり、「鬼太鼓」は佐渡にしかない古典芸能とされている。

北前船は、佐渡が独自の伝統文化を醸成する上で重要な役割を果たしているだけでなく、他の寄港地にも様々な文化的・経済的な影響を及ぼしている。そこで以下では、北前船がもたらした様々な遺産をとおした地域活性化の主な取り組みについてみていく。

2. 北前船をとおした地域活性化

2-1. 佐渡市における観光政策

2017年度の佐渡市施政方針における「観光地域づくりの推進による交流人口の拡大」では、①佐渡版DMOを中心とした滞在交流型観光の推進と、②受入体制の整備について述べられている¹。

佐渡市は、観光地域づくりを先導する「DMO (Destination Management / Marketing Organization)²」

の 2018 年度設立に向けて準備を進め、滞在交流型観光の推進に取り組んでいる。DMO とは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人をいう³。佐渡金銀山の世界遺産登録に向けた諸活動としては、佐渡金銀山ガイドの登録制度の構築、トイレや Wi-Fi 環境の整備、外国人観光客の受入体制の整備などが指摘されている。

2018 年度の施政方針における「観光地域づくりの推進」では、①観光地域づくりのかじ取り役としての DMO の構築、②文化・芸術資源の磨き上げと活用、③歴史的風致の維持向上のための環境整備が挙げられている⁴。この施策のもと、佐渡の独特な文化や風習を観光コンテンツとして活用し、外貨を稼ぐ仕組みを構築することで、担い手の育成や文化芸能の伝承も含めた好循環が生まれるような観光地域づくりが推進されている。

佐渡金銀山の世界遺産登録に向けては、観光振興の起爆剤として期待されているものの、一過性で終わらせることのない戦略を立案することの重要性が指摘されている。同年 4 月には、佐渡版 DMO として一般社団法人「佐渡観光交流機構」を設立し、地域資源を活かした観光を推進するためのプラットフォーム事業を開始した。事業運営は、総務部、旅行事業部、マーケティング部の 3 事業部で構成され、両津、相川、南佐渡の各観光案内所で活動が行われている。具体的な事業内容は、①観光情報の発信、誘客宣伝、案内に関する事業、②地域産業における観光資源の開発と活用、保全に関する事業、③観光産業に関する市場調査、統計事業、④着地型旅行商品の開発と販売に関する事業、⑤旅行業法に基づく旅行業及び旅行業者代理業、⑥観光に関連する公共施設の管理運営に関する業務、⑦外国人観光客誘客促進に関する事業、⑧その他この法人の目的を達成するために必要な事業である。また、一元化された戦略のもとで伝統文化の活用を図るために、一般財団法人「佐渡文化財団」を同年 6 月に設立し、①伝統文化継承事業、②伝統文化活用事業、③情報発信事業、④その他の事業をとおして文化を基軸とした島の活性化に取り組んでいる。世界遺産登録を目指す佐渡金銀山が位置する相川地区については、「歴史的風致」としての「相川まちづくり」が目指されている。

2019 年度の施政方針における「観光地域づくりの推進」では、①佐渡観光交流機構と連携した交流人口の拡大、②世界遺産登録に向けた受入体制の強化、③文化・芸術・スポーツの活用について述べられている⁵。

佐渡市では、平成 30 年の観光客数が 51.9 万人と減少に歯止めがかかり、延べ宿泊客数は約 29 万人と約 6%の伸びとなったことで、ここ数年取り組んできた滞在時間の延長策が数値として徐々に現れてきているとみている。昨年度設立された「佐渡観光交流機構」と連携し、観光

ニーズの分析や地域住民との協働による観光地域づくりを推進しており、同機構と佐渡市産業観光部による「さどまる倶楽部⁶」では、現在会員数が1万6千人となっており、2020年度には会員数を3万人にまで増やすことを目標としている。「さどまる倶楽部」とは、島外在住者向けの「佐渡アイランドサポーター」制度で、無料登録するだけで、優待付きの宿泊プラン、佐渡汽船や観光バスなどの割引、島内の協賛店でのサービスなど、島内観光での優待が受けられるものである。この会員カードに電子マネー機能を組み込むことなどで利便性を高めるとともに、会員データを活用した受入態勢の強化や新商品開発につなげていく計画である。

佐渡金銀山の世界遺産登録については、2020年の推薦決定に向けて推進運動を続けていくとともに、金銀山の魅力を価値や魅力を発信し、現地訪問の拠点となるガイドンス施設「きらりうむ佐渡⁷」を2019年4月20日に開館した。同施設では、大型映像や地形模型、プロジェクトンマッピングなどを活用して佐渡金銀山の魅力を紹介している。また、ガイドマップやガイドアプリなどを用いて、史跡やまち歩きのための情報も提供している。

文化・芸術を活用した観光地域づくりについては、2018年7月に発足した「佐渡文化財団⁸」と連携し、伝統文化等の継承・活用・情報発信に取り組んでいる。現在の事業内容は、伝統芸能学習会と伝統芸能楽器等の貸出事業である。スポーツに関しては、ロングライドやトライアスロンといったイベントが盛んであることから、テーマ性があり、スポーツと地域の特色が感じられる仕組みを構築し、地域イメージの更なる向上に取り組んでいる。

以上の観光政策のもと、佐渡市宿根木では「佐渡国小木民俗博物館」が運営されており、船大工道具1,034点は、国指定の重要有形民俗文化財となっている。併設されている千石船「白山丸」展示館では、1858年に宿根木で作られた「幸栄丸」を実寸大で復元した「白山丸」が展示されており、船内には船竿箆や船絵馬などの資料が展示されている。宿根木は、千石船産業が繁栄した当時の集落形態が残されており、約1ヘクタールの土地に110棟の建造物（家屋や納屋、土蔵）が密集している。



宿根木の街並み（筆者撮影）

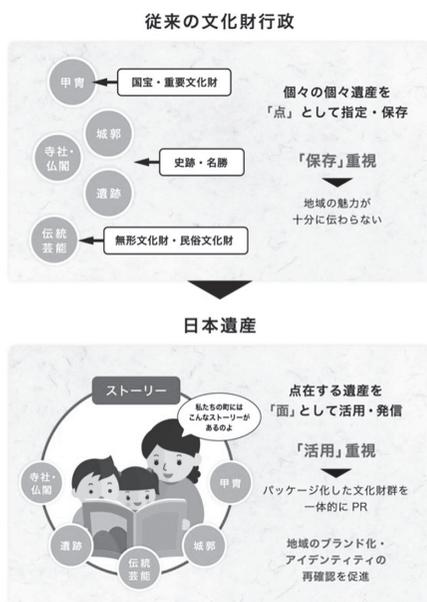
2-2. 日本遺産としての北前船

佐渡市は、小樽市や鱒ヶ沢町、高岡市、鳥取市、神戸市など、45の自治体とともに、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」として文化庁から認定を受けている。文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定している⁹。日本遺産は、このストーリーを語る上で欠かせない魅力的な有形・無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外へ戦略的に発信していくことで地域の活性化を図ることを目的としている。世界遺産や文化財は、登録・指定される文化財（文化遺産）の価値付けを行い、保護を担保するものだが、日本遺産は、地域に点在する遺産を「面」として活用し発信することで、地域活性化を図ることを目的としている（図1、2参照）。

日本遺産事業の方向性は、以下の3点に集約される。

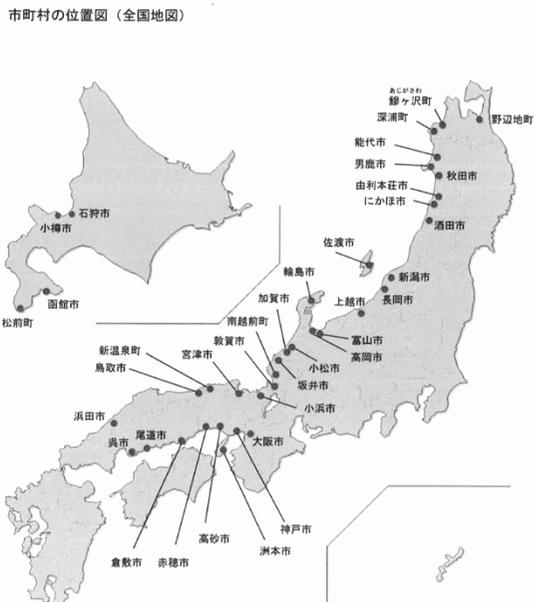
- ①地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
- ②地域全体としての一体的な整備・活用
- ③国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

図1：日本遺産事業の目的¹⁰



出所：日本遺産ポータルサイト

図2：北前船寄港地の認定地域¹¹

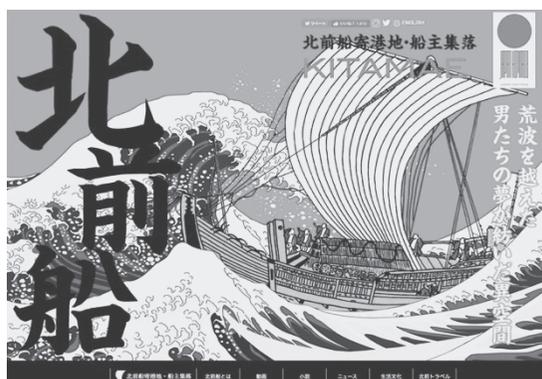


出所：日本遺産ポータルサイト

日本遺産ポータルサイトでは、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」のストーリーとして、以下のように記述されている¹²。

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

北前船日本遺産推進協議会による「北前船 KITAMAE 公式サイト¹³」では、佐渡市は、石川県輪島市や加賀市橋立、福井県南越前町とともに、船主を輩出した集落のひとつとして紹介されている。西回り航路の寄港地であった佐渡市の宿根木は、江戸時代中頃から明治にかけて廻船業や造船業の基地として繁栄した。当時は120戸500人ほどの集落で、船主や船乗り、船大工などが居住し、乾物屋、桶屋、紺屋、鍛冶屋などが集積していた。佐渡市における構成文化財（認定されたストーリーを構成する文化財）としては、清九郎家、三角家、宿根木白山神社、木崎神社、舟つなぎ石、念仏橋及び石橋、小木湊古絵図、佐渡の大神楽舞楽が同HPに取り上げられている。



出所：北前船 KITAMAE 公式サイト

2-3. 北前船寄港地フォーラム

「北前船寄港地フォーラム¹⁴」とは、「北前船コリドール構想」に賛同した自治体や企業などが集まって、2007年から開催されているフォーラムで、2019年の小樽・石狩開催で28回目となる。北前船コリドール構想とは、かつて日本海が栄えた「北前船寄港地」のルートを点から面へ、回廊として発展させようとするものである。2017年には、同フォーラムに参画していた

東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、北海道旅客鉄道、日本航空、ANA 総合研究所などが中心となって一般社団法人「北前船交流拡大機構」が設立された。同機構は、「北前船ブランドを通じた地域間交流拡大」という理念のもと、北前船の寄港地、並びにその周辺地域における交流の促進、人材の育成、及び相互コミュニティの構築に関する事業を行うことで、地域の活性化や観光の促進を図っている。

佐渡市では、2010年3月20日に第6回「今、佐渡観光に求められるもの」というテーマのもとで開催された。2018年5月には、「北前船寄港地フォーラム in 大連」が開催され、日本からは首長など約600名、中国からの関係者が約200名参加し、基調講演などが行われた。2019年10月19-20日に開催された第28回は、「北前船往来～日本の繁栄と近代化を支えた絆をふたたび」というテーマのもと、基調講演や研究発表のほか、小樽市立潮見台中学校文化部による北前船の痕跡調査や、未来創造高校の生徒による北前船を観光資源として活用するアイデアの発表などが行われた¹⁵。

同機構は、北前船日本遺産推進協議会、日本財団「海と日本プロジェクト」と共同で、2018年から「北前船こども交流拡大プロジェクト¹⁶」を行っている。目的は、①日本遺産に認定された寄港地15道府県38市町の小学生が地元の北前船が築いた港の文化・特徴・功績を学び全国で共有することと、②北前船のワークショップを通じて、北前船が地元にもたらした食文化や歴史を楽しみながら学ぶとともに、日本経済を支える「港」の役割について再認識し、北前船を培った海に関心をもってもらうことにある。実施内容は、①渉外活動として、夏休みの自由研究の推奨課題とするモデル校を1校選定、②北前船ワークショップを15道府県の各モデル校で実施、③「北前船こどもガイドブック」を制作し、15道府県35市町の全小学校5学年に4万部配付、④「北前船こどもガイドブック」を利用したモデル校での「北前船」授業の実施である。

3. まとめ

本稿では、佐渡市を中心に北前船をとおした地域活性化の主な取り組み状況について整理していった。佐渡市における観光政策では、佐渡金銀山の世界遺産登録に向けた活動が中心となっており、北前船をとおした地域活性化事業は優先順位が低いようである。対して、日本遺産は、45の自治体における北前船に関する有形・無形の様々な文化財群を総合的に整備・活用し、国内外へ戦略的に発信している。日本遺産が、北前船に関する情報発信を中心に手がけているのに対して、北前船寄港地フォーラム（北前船交流拡大機構）は、様々な民間企業や北前船日本遺産推進協議会などと連携しながら、寄港地でのフォーラム開催や、小学生に向けた体験型の

学習事業を展開することで、寄港地の地域活性化だけでなく、北前船に関する文化や歴史の次世代への伝承を図っている。長期的な視点に立てば、教育活動をとおした北前船遺産の伝承は、非常に有効な手法だと考えられる。今後は、こうした活動が各寄港地に根付いていくプロセスや、その成果を整理していくことが課題となる。

-
- ¹ 佐渡市役所 <https://www.city.sado.niigata.jp/mayor/policy/2017/index04.shtml> (2019.12.7 アクセス)
 - ² 国土交通省観光庁「日本版 DMO とは？」 http://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000048.html (2019.12.10 アクセス)
 - ³ 国土交通省観光庁、前掲 HP。
 - ⁴ 佐渡市役所 <https://www.city.sado.niigata.jp/mayor/policy/2018/index.shtml> (2019.12.7 アクセス)
 - ⁵ 佐渡市役所 <https://www.city.sado.niigata.jp/mayor/policy/2019/index03.shtml> (2019.12.7 アクセス)
 - ⁶ さどまる倶楽部 <https://sadamaru-crm.visitsado.com/> (2019.12.11 アクセス)
 - ⁷ きらりうむ佐渡 https://www.city.sado.niigata.jp/z_ot/kirarium/index.html (2019.12.11 アクセス)
 - ⁸ 一般財団法人「佐渡文化財団」 <https://www.sado-bunka.or.jp/> (2019.12.11 アクセス)
 - ⁹ 日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/index.html> (2019.12.01 アクセス)
 - ¹⁰ 日本遺産ポータルサイト
 - ¹¹ 日本遺産ポータルサイト https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/app/upload/heritage_data_file/039-2273371355325778.pdf (2019.12.01 アクセス)
 - ¹² 日本遺産ポータルサイト
 - ¹³ 北前船 KITAMAE 公式サイト【日本遺産・観光案内】 <https://www.kitamae-bune.com> (2019.12.01 アクセス)
 - ¹⁴ 北前船交流拡大機構 <https://www.kitamae.org> (2019.12.11 アクセス)
 - ¹⁵ 小樽ジャーナル <https://www.otaru-journal.com/2019/10/post-56586/> (2019.12.11 アクセス)
 - ¹⁶ 北前船交流拡大機構「北前船こども交流拡大プロジェクト実施報告書」 <https://fields.canpan.info/report/detail/21901> (2019.12.11 アクセス)